岸

三年

画数 8
筆順 出 屮 岸 岸
オン ガン
クン きし

成り立ち

〝山〟という字と、〝崖〟の形をあらわし、〝崖〟のいみをあらわした〝厂〟と、〝竿〟の形をあらわし、カンという音をもった〝干〟とを組み合わせて作った字で、「山が海につき出て、崖になったところ」をあらわした字です。「水ぎわの崖になったところ」のことです。

今では、〝崖〟が水ぎわなどの〝がけ〟のいみにつかわれ、〝岸〟は〝がけ〟になっているいないにかんけいなく〝水ぎわ〟〝きし〟のいみにつかわれています。

〝干〟は、〝岸〟という字の音をあらわした字で、いみにはかんけいのない字です。

使い方

▽伊豆の海岸へつれて行ってもらいました。けわしい岸壁から見下ろしますと、すいこまれるような気がしてこわくなりました。対岸の房総半島が手にとるように見えました。

熟語例

▽海岸（陸地が海につながるところ。字のいみは「崖になったところ」ですが、今は〝砂浜〟のところでも海岸といいます。）

▽岸壁（壁のように切り立った海岸。けわしい崖。また、船をつけるために作った〝はとば〟のこと。）

▽対岸（対は〝むかいあう〟こと。むかいあった岸。むこう岸）

▽接岸（船を岸につけること。また、汽船が岸壁に横づけになること。）

▽沿岸（海、川、みずうみなどに沿った陸地。また、海、川、みずうみの陸地に近いところ）

▽彼岸（〝彼の岸（むこう岸）〟。「さとりの世界」または「霊界」、また「先祖の霊をまつる春分、秋分を中心にした七日間」のことをいいます。）

起

三年

画数 10
筆順 十 キ 走 起 起
オン キ
クン お＝きる＝こる＝こす

成り立ち

〝走る〟といういみをあらわした〝走〟と、糸まきから糸口（緒）をとり出した形をあらわし、「ものごとの〝はじめ〟」といういみの〝己（年 876）〟とを組み合わせて作った字で、「〝走る〟ということの〝はじめ〟にすること」をあらわした字です。「体を〝おこす〟こと」をあらわした字です。例起立。

これから〝走る〟ことを「始めよう」というしせいをあらわした字ですから、「ものごとを始める（おこす）」といういみにつかわれるようになりました。例起工、起草。

使い方

▽ぼくは朝早く起きるのが苦手です。おかあさんに何度も起こされるのですが、なかなか早く起きられません。

▽今から六十何年も前に起こった、関東大震災では、十三万人もの死者や行方不明者が出たそうです。

熟語例

▽起立（立ちあがること。体を起こすこと。「全員が起立して、拍手をおくりました」などというふうに、つかいます。）

▽起工（工事を始めること。工事を起こすこと。「この建物は、一九六一年に起工され、一九六二年に完成しました」などというふうに、つかいます。）

▽起草（草案や草稿を書き起こすこと。「草案」「草稿」は、「文章の下書き」という意味です。「明治元年、五か条の誓文が、由利公正らによって起草された」などというふうに、つかいます。）

▽発起（そのくわだてを起こすこと。それを計画すること。「発起人」といえば、そのくわだてを起こした人のことです。）